

保健所における幼児肥満予防 教室の効果

(分担研究：小児肥満予防対策に関する研究)

梁 茂雄

沼津保健所保健指導課一同

要約：保健所における幼児肥満予防教室は各地で試行錯誤しながらも行われている。沼津保健所でもこの事業を開始して4年が経過する。このたび幼児肥満予防教室が少しでも幼児肥満の解消に役立っているかを調査を行った。結果は、全体的にははっきりした効果がみられなかったが、高度肥満の予防には役立った印象がうかがえた。

見出し語：幼児肥満予防教室、就学時の肥満、保健所、幼児肥満、小児の肥満

〔はじめに〕小児の肥満のかなりの部分は小学校入学時にすでにみられ、その後の肥満に移行する危険性が高い。教育現場ではなるべく就学時の肥満傾向児が少ないことを希望するのは当然である。

このために幼児期からの肥満予防事業の必要性が叫ばれている。その方法の一つとして、保健所の多くでは肥満傾向児を対象に幼児肥満予防教室が試行錯誤しながら行われている。

沼津保健所でも1990年から幼児肥満予防教室が開催されており、この時の対象者が就学する時を迎えている。今回我々は、この幼児肥満予防教室が就学児の肥満傾向にどのような影響を与えたかまた、今後の幼児肥満予防事業の改善のための資

料とすることを目的に調査を行った。

〔対象ならびに方法〕1990年、沼津保健所の3才児検診受診者の中、肥満度15%以上の幼児を対象とした。これらの対象者には保健所の幼児肥満予防教室への参加を勧め、参加者、不参加者の就学時の肥満の変化を比較した。

〔結果〕

〔1〕3才児検診対象者(1990年) 2350名

受診者 2141名(91.1%)

〔2〕肥満度15%以上の対象者 57名(2.7%)

〔3〕幼児肥満予防教室参加者 15名(26.3%)

沼津市立病院小児科

[4] 追跡調査

対象 57名
有効回答 23名(40.4%)

内訳 葉書、電話で回答あり 23名
転居 12名
連絡不能 11名
回答拒否 1名
無回答 10名

[5]

(1) 3才時と就学時の肥満度 (不参加者)

	肥 満 度		比 率
	3才時	就学時	
1	16	39	2.44
2	27	45	1.65
3	17	22	1.29
4	22	33	1.48
5	21	18	0.86
6	18	2	0.10
7	39	55	1.41
8	16	5	0.31
9	39	79	2.03
10	18	15	0.83
11	34	70	2.06
12	28	40	1.43
13	23	72	3.13
14	27	34	1.26
15	19	10	0.53

24.3±7.6 35.9±23.9 1.39±0.79

	肥 満 度		比 率
	3才時	就学時	
1	75	28	0.37
2	21	21	1.00
3	22	20	0.91
4	17	19	1.12
5	23	38	1.65
6	20	47	2.35
7	28	40	1.43
8	21	9	0.43

28.4 ±17.9 27.8±12.0 1.16±0.72

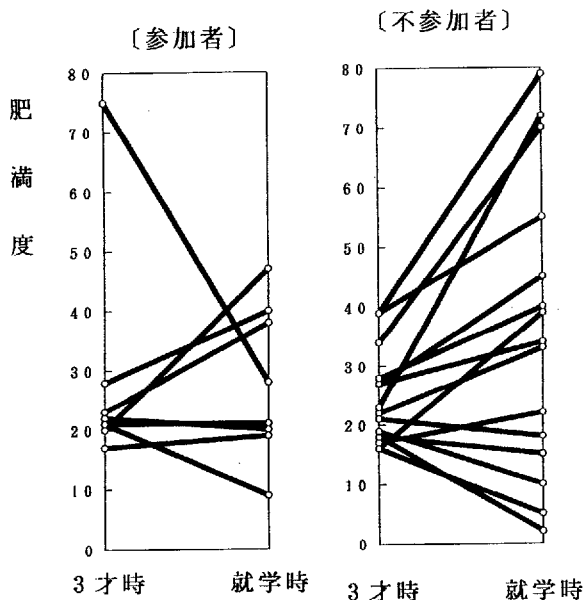
(3) 肥満度の分布 (不参加者)

肥満度	15%<	15~29	30~49	50 ≥
3才時	0名	12	3	0
就学時	3	3	5	4

(4) 肥満度の分布 (参加者)

肥満度	15%<	15~29	30~49	50 ≥
3才時	0名	7	0	1
就学時	1	4	3	0

(5) 肥満度の経時的变化



〔考案〕小児の肥満を予防するためには、幼児期から対策をたてなければならないことが指摘されている。その方法の1つとして保健所における幼児肥満予防教室が開催されている。この幼児肥満予防教室の運営にあたり、マニュアルの不在、経済的・人力的不足の中で試行錯誤をしながら行われているのは全国的なものである。もう1つの問題点は、幼児の肥満傾向の児のみを対象にしていることである。さらに、母親の就業率の高い現在、保健所に来所して教室に参加することは非常に困難である。沼津保健所の幼児肥満予防教室の参加者の比率が26%がそれを物語っている。さらに年1回のフォローに参加できるのは極少数である。

追跡調査にあたり、転居、その他で調査が不可能であった対象者が60%にも及ぶ。

このように、幼児肥満予防教室の開催には問題

が山積している。

今後の方針としては、対象者を肥満傾向児のみでなく、一般の教育として全幼児を対象とすべきであろう。

さて、色々問題のある幼児肥満予防教室ではあるが、いままでのやり方で幼児の肥満傾向が就学時には少しは良い方向に影響したかどうかを今回調査してみた。

個人の肥満の変化を指数として比較してみた。幼児肥満予防教室に参加した群では、指数としてもっとも高かったのは2.35で、平均の指数では1.16であった。これに比べ、予防教室に参加しなかった群では、指数3.13を含め平均1.39と高かった。しかし、両群には有意差は認められない。

別の視点から両群を比較すると、幼児肥満予防教室の不参加者には就学時には高度肥満者が4名(26.7%)にも及んでいるが、予防教室参加者からは就学時に高度肥満者は1名も出現していない。

以上のように、幼児肥満予防教室は小児肥満の予防に少しは役立っているように見える。

今後、改良を加えながら幼児肥満予防教室の存続の意味は十分あると考えられる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:保健所における幼児肥満予防教室は各地で試行錯誤しながらも行われている。沼津保健所でもこの事業を開始して4年が経過する。このたび幼児肥満予防教室が少しでも幼児肥満の解消に役立っているかを調査を行った。結果は、全体的にははっきりした効果がみられなかったが、高度肥満の予防には役立った印象がうかがえた。